

# 小学校での音楽鑑賞会にみる3年生と4年生の 「鑑賞」の質的違い

青山 夕夏・安友 孝宣\*  
(音楽教育講座) (大学院教育学研究科)\*

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

\*760-8522 高松市幸町1-1 香川大学大学院

## Qualitative Differences in “Appreciation” of Live Performance between 3rd and 4th Grade Children at Elementary School

Yuka Aoyama and Takanori Yasutomo

*Faculty of Education, Kagawa University, 1-1, Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

*\*Graduate School of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

**要旨** 筆者はこれまで、演奏者の立場で音楽鑑賞会に関わってきたが、次第に様々な課題を感じるようになった。本論文ではまず、筆者が高松市立二番丁小学校で行った音楽鑑賞会でこれまでの課題の解決を試みた実践内容を報告する。次に、音楽鑑賞会終了後に実施した児童のワークシートの内容分析から興味深い結果を得たので、その内容を報告する。特に、1年生と2年生、5年生と6年生の学年間の児童の鑑賞のしかたには、あまり大きな差が認められなかったのに対し、同じ中学年の3年生と4年生の児童の間には、鑑賞のしかたに質的違いがみられることがわかった。具体的には、鑑賞のしかたが楽器個々の音から、音の重なりを聴くことに発展し、合奏に注目しはじめる様子や、興味の中心が演奏者から音楽自体に移動する傾向がみられた。このことは、この時期に音楽の聴き方が飛躍的に伸展する可能性があることを示しているとともに、この時期を生かすことによって「鑑賞」の授業がより充実したものとなるのではないかと考える。

**キーワード** 音楽鑑賞会, 中学年, 鑑賞, 演奏会, 3年生

### はじめに

音楽の学習活動は、「鑑賞に始まり、鑑賞に終わる」と言われる。児童にとって、実際の演奏に触れることの意義は極めて大きい。現在音楽科の授業では、鑑賞機材を利用して、あらゆる音楽に接することが可能となっている。CD、DVDなどの機材を利用して、様々な録音媒体の

中から多様で良質の音源を選択することもできる。しかしその一方で、ライブの演奏に触れる機会や、演奏会場に足を運ぶ機会は減り、音楽の世界でも子どもが「現実」に向き合わない状況が進んできているのではないかと思う。「鑑賞活動」でも、バーチャルな体験で満足してしまい、現実の音との距離が広がっているのではないかと感じるのである。

筆者はこれまで演奏者(フルート奏者)として、多くの音楽鑑賞会で演奏してきた。演奏を聴いてもらうこと自体には大きな意義を感じ、子どもたちの喜びも伝わってはくるのだが、次第に音楽鑑賞会をもっと子どもの豊かな体験にすることができるのではないかと感じるようになった。音楽鑑賞会は、一般の演奏会とはいくらか違った目的を持つものである。聴きたい演奏家、聴きたい楽曲を選んで子どもたちが足を運んでくるわけではない。子どもにとっては、否応なしにその時間はその場に座って聴かなければならない学習活動の一環なのだ。せっかく音楽鑑賞会が設定されたなら、その時間をもっと有意義なもの、児童の学習の段階や、前後の授業とかかわりのあるものにできないものだろうか。限られた学校での音楽の時間を、音楽鑑賞会によって一段と実りあるものにできないだろうかと思うようになった。そのためには、筆者は地域の演奏者と学校が、「音楽」の授業の中で連携をとって音楽鑑賞会を成立させることが望ましいと考えていた。

今回、高松市立二番丁小学校という筆者の職場の校区にある小学校で音楽鑑賞会を行う機会を得た。これまで、演奏する者の立場で関わってきた音楽鑑賞会では、招聘側の要望や意図がよく飲み込めないまま音楽鑑賞会を実施したり、事前に対象とする児童の状況の把握が難しいなどの問題を感じてきた。また、限られた時間の中で、自らの説明不足を痛感したり、せっかく児童からの質問があっても、一度限りの行事では、十分にそれに答えることは難しかった。

これまで音楽鑑賞会の研究は、直接に演奏に携わる者の立場からはあまり行われてきていない。今回、筆者はこれまで感じていた課題のいくらかの改善を試みたいと思い、小学校の中学年にあたる3年生を主な対象とする音楽鑑賞会を設定した。また、その後に音楽鑑賞会とかかわりのある授業の設定を計画した。具体的には、音楽鑑賞会の児童の反応を知ることによって、演奏者が直接に音楽鑑賞会の内容を補足したり、質問に答えるといった形をとるものである。

本論文では、音楽鑑賞会の実施から児童の

ワークシートの内容分析までを扱う。まず、音楽鑑賞会及びその準備に関する実践報告を行う。次に、その後に児童のワークシートの内容分析から得られた結果と考察を記す。

本研究では、論文の作成は主に青山が担当し、安友(サクソフォーン奏者・香川大学附属小学校非常勤講師)がコーディネーターとしての役割と音楽鑑賞会の進行・演奏を行った。

## I. 音楽鑑賞会

音楽鑑賞会の開催にあたってはこれまでの反省を踏まえ、(1)児童の様子を知り、担当教員の要望に沿った曲目・話の内容を考慮すること、(2)音楽の授業と関わりのあるものとするこの2点に配慮した。演奏会にあたっては、音楽科の担当教員と相談を行いながら、以下の順に準備を進めた。

1. 児童の実態把握
  - ・学校を訪問する
  - ・音楽科の担当教員と相談・要望を聞く
  - ・「音楽」の授業の様子を見学する
2. 音楽鑑賞会のタイトルと曲目の決定
3. プログラム・ノートの執筆
4. 音楽鑑賞会の進行と話の作成
5. ワークシートの作成

### 1. 児童の様子を知る

地域在住の演奏家が学校の音楽鑑賞会で演奏する大きな利点の一つには、相互の連絡の取りやすさがあげられる。演奏者が、学校を訪問して学校や児童の雰囲気を知ったり、音楽担当教員と相談したり、意見交換をすることも可能となる。さらに、児童の終了後の反応を知ることによって、そこから発展させる可能性も生まれる。

今回は、事前に学校を訪問した。演奏場所、児童の様子などに触れるとともに、音楽科の担当教員より「音楽」の授業の様子、これまでの授業内容、鑑賞した曲、現在取り扱っている内容などの説明を受けた。また、日を改めて3年生の音楽の授業を見学した。鑑賞教材、サン・サーンス「白鳥」を題材に「様子を思い浮かべて、

楽器の音やふしに注目して聴こう」をめあてにしたものである。見学を通して、児童が鑑賞活動に意欲的に取り組む、具体的な学習の様子を知ることができた。特に、楽器を実際に演奏する映像には大きな関心を示していた。この授業の前後には、児童たちが自主的にリコーダーで「大きな古時計」や「茶摘み」などを練習する様子などにも触れた。

## 2. 音楽鑑賞会のタイトルと曲目の決定

### (1) タイトルの決定

音楽鑑賞会が行われるまでの音楽の授業との関連で、音楽科の担当教員から「アルルの女第2組曲より メヌエット」<sup>1</sup>を必ず演奏してほしいという要望があった。そこでこの作品を中心にプログラムを構成することにした。「アルルの女」は、サクソフォン(西洋楽器の中では最も新しい楽器である)が、初めて本格的に管弦楽の中に使用された楽曲で、有名なサクソフォン独奏の「間奏曲」も含まれている。演奏楽器は、筆者が直接演奏できる楽器との組み合わせをと考えていたので、今回の音楽鑑賞会には、うってつけの作品である。楽器編成は、フルート、サクソフォン、ピアノに決定した。

また、「全学年に聴かせたい」という学校側の要望も受けて、音楽鑑賞会は全校生<sup>2</sup>に聴いて

もらう45分間と決まった。児童の「音楽」の授業との関連を図るという意図で、同じ演奏曲目であっても、低・中・高学年別にふさわしい切り口で目標が設定できるよう、3種の音楽鑑賞会のタイトルを決定した(表1)。

### (2) 曲目の決定(表2)

選曲にあたっては、以下の3点に配慮した。

①全員(3種の楽器)での合奏とともに、各楽器の独奏曲を必ず入れること。

②高度なテクニックを要する楽曲も選曲すること。

③曲目相互に意味づけの持てるものとする。

まず、ビゼーの「メヌエット」と「間奏曲」が決まった。次に、ビゼーがフランスの国民的オペラ作曲家であることから、同時代のオペラ作曲家であるドイツのワーグナー、イタリアのヴェルディのオペラからも選曲することにし、ピアノ独奏による「序曲」と、管楽器用の2曲の幻想曲を選んだ。オペラは長く、時に難解でもあるが、オペラの中の序曲や名曲をもとにして作られた「幻想曲」には、特に多くの聴衆に親しまれてきた旋律が含まれている。これらは、オペラの内容を離れて、子供から大人までが親しみ、楽しめるものである。また、高度な技術を必要とする楽曲であることから、低学年でも視覚的

表1 タイトルと、小学校学習指導要領(音楽)B 鑑賞「身に付ける能力および取り扱う教材」に対応する箇所

1・2年生	タイトル : 「いろんな音楽をきいてみよう ～がっきの音をくらべてみよう～」		
	身に付ける能力	ウ	楽器の音色に気を付けて聴くこと
	取り扱う教材	イ	行進曲、踊りの音楽、身体反応の快さを感じ取りやすい音楽など、いろいろな種類の楽曲
ウ		児童にとって親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲	
3・4年生	タイトル : 「ピアノと管楽器できく 歌劇(かげき)の音楽 ～楽器の音をくらべてみよう～」		
	身に付ける能力	ウ	楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと。また、それらの音や声の組み合わせを感じ取って聴くこと。
	取り扱う教材	イ	劇の音楽、管弦楽の音楽、郷土の音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の楽曲
ウ		独奏、合奏を含めたいろいろな演奏形態による楽曲	
5・6年生	タイトル : 「ピアノと管楽器できく 歌劇の音楽 ～楽器の組み合わせをくらべてみよう～」		
	身に付ける能力	ウ	楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと。またそれらの音や声の重なりによる響きを味わって聴くこと。
	取り扱う教材	イ	歌曲、室内楽の音楽、箏や尺八を含めた我が国の音楽、諸外国に伝わる音楽など、いろいろな種類の楽曲。
ウ		独唱、合唱、重奏を含めたいろいろな演奏形態による楽曲。	
保護者	タイトル : 「楽器で聴くオペラ作品」		

プログラム

(表2)

	作曲者	曲目	楽器編成	演奏時間
1	ビゼー	メヌエット 「アルルの女」第2組曲から	フルート・ピアノ(一部サクソフォン)	4分
2	ビゼー	間奏曲 「アルルの女」第2組曲から	アルトサクソフォン・ピアノ	4分
3	ビゼー/ボルヌ	カルメン・ファンタジー オペラ「カルメン」から	フルート・ピアノ	7分
4	ヴェルディ/ロヴェッリヨ	椿姫のテーマによる演奏会用幻想曲 オペラ「椿姫」から	ソプラノサクソフォン・ピアノ	7分
5	ワーグナー/リスト	タンホイザー序曲 オペラ「タンホイザー」から	ピアノ	5分
6	モーツァルト	パ・パ・パ オペラ「魔笛」から	フルート・アルトサクソフォン・ピアノ	4分

に楽しめる。さらに、オペラの学習の足がかりにもなればと考え、4年生の「げきの音楽」として扱われる「パ・パ・パ」(モーツァルト：オペラ「魔笛」から)をプログラムに加えた。「パ・パ・パ」の演奏は、3つの楽器による編曲版で、各楽器に同旋律の独奏部分があるとともに、同旋律で3つの楽器の音が重なる部分を含んだ構成となっている。音の重なる部分は、演奏者には、楽器の音色の同質性(音色が均質に重なる)を求められる部分であり、聴者には一つ一つの音を聴くのと好対照の全く異なった響きを楽しめる部分でもある。

3. プログラム・ノートの作成

プログラム・ノートは、低学年、中学年<sup>3</sup>、高学年、保護者(教員)<sup>4</sup>の4種類を用意した。児童への配布は事前に教室で行い、演奏に集中してもらうため音楽鑑賞会には持参しないようお願いした。また、関心のある保護者の方には一緒に参加してもらい、児童と時間を共有してもらいたいと思った。オペラの内容を子どもに紹介するのはなかなか難しい。より詳しい情報を提供しておくことで、個々の児童の発達段階に合わせた説明を加えてもらうことも可能になる。児童の興味を一層膨らませてほしいと願ったからである。

4. 音楽鑑賞会の進行と話の作成<sup>5</sup>

曲と曲の間には、それをつなぐ話(解説を含めた)をすることとし、その内容を作成した。しかし、異学年の児童が、それぞれに興味を持つ内容で鑑賞会を進めていくことは容易ではない。また鑑賞会にハプニングはつきものだし、児童の反応も様々である。そこで、音楽を聴く

ことに集中するためにも話はなるべく短く、精選した内容を扱うことに留意するとともに、状況を見ながら臨機応変に対応していくこととした。

5. ワークシートの作成

「音楽鑑賞会」のフィードバックを目的として、ワークシート<sup>6</sup>の分析をすることにした。ワークシートは低、中、高学年、保護者用<sup>7</sup>(アンケート)の4種を作成し、音楽鑑賞会終了後、各教室での記入をお願いした。

II. ワークシートの分析とその結果

ワークシートは、各学年に応じて表現は異なっているが、いずれも「思ったこと・感じたこと」(感想)と「質問」の2項目で構成されている。また各項目は、自由記述とした。

音楽鑑賞会のワークシートの設問 (表3)

1・2年生	(1)	えんそうをきいておもったことかんじたことをじゆうにかきましょう
	(2)	しつもんコーナー(いっばいしつもんしてみよう!)
3・4年生	(1)	えんそうをきいておもったことかんじたことを自由に書きましょう。
	(2)	しつもんコーナー(いっばいしつもんしてみよう!)
5・6年生	(1)	えんそうをきいておもったことかんじたことを自由に書きましょう。
	(2)	しつもんコーナー(いっばいしつもんしてみよう!)

ワークシートの分析にあたっては、児童の記述内容を、2項目それぞれについて6つに分類した。以下にその結果を具体的に記す。

学年が上がるに従って記述量も増え、一人の児童がいくつもの内容にわたる記述をしている様子が見られた。また、文章の記述があいまいなために、判断に苦しむこともあったが、前後関係等から判断した。



## 1. 「思ったこと・感じたこと」の分析

### (1) 回答内容の分類項目

1. 楽器自体に注目して聴いた
2. 演奏(奏法)に注目して聴いた
3. 楽器の音や音色に注目して聴いた
4. 曲目や曲の持つ雰囲気(曲想)・作曲者に注目して聴いた
5. 演奏者に注目して聴いた
6. 感想・そのほか

### (2) 分析結果

「思ったこと・感じたこと」を学習指導要領の学年の枠組みに従って低学年、中学年、高学年のまとまりとして比較してみると、それぞれの中に大きな違いを認めることができなかつた<sup>8</sup>。そこで学年別に比較すると<sup>9</sup>、1年生と2年生、5年生と6年生の集計には、各両学年の間に特徴的な違いはあまり認められなかつたのに対し、3年生と4年生には、興味深い違いが見られた。また4年生には3年生ではみられないような気づきが多数みられた。

3年生と4年生の間に大きな違いがあることが判つたので、その点をさらに詳細にみてみよう(下表および資料8)。

	3年生	4年生
1. 楽器自体に注目して聴いた	5%	9%
2. 演奏(奏法)に注目して聴いた	32%	32%
3. 楽器の音や音色に注目して聴いた	41%	81%
4. 曲目や曲の持つ雰囲気(曲想)・作曲者に注目して聴いた	28%	43%
5. 演奏者に注目して聴いた	62%	37%
6. 感想・そのほか	46%	25%

### (3) 3年生と4年生の感想の傾向・特徴

- 3年生がもっとも関心を示したのは、演奏者＝人に対してであり、4年生がもっとも関心を示したのは、楽器の音や音色に対してであった。

3年生「とても真剣にピアノを弾いていました。」

「全員が体でリズムをとっていました。」他

4年生「サックスの音色がとてもきれいで、フルートもとても良い音色でした。優しい音でした。」

「サックスの音が1種類ずつ違っていて不思議だった。」他

- 3年生では、視覚的な部分(高度なテクニッ

クを示す楽曲)への関心が特に高い。

3年生「ピアノを弾く人の手の動きが速いので、すごいと思いました。」

「サックスも体の動きも使っていてすごいと思った。」

- 3年生は一つ一つの楽器の音や音色を聴く傾向にある。4年生では、3種の楽器の音(響き)の重なりに関心を持つようになり、合奏についても関心を持てるようになる。

3年生「サックスは低い音のでるサックスと高い音の出るサックスがあるなんてしりませんでした。」

「フルートは、きれいな音だなと思った。」他

4年生「『パ・パ・パ』は、3つの楽器の音色が混ざってきれいでした。」

「サックス、フルート、ピアノの音色がすごくあっていて聞いているとわくわくしました。」他

- 3年生の世界は、自分を中心にして考えている。自分と比べたり、自分の身近な人や物と比較したりして、自分がどうしたいかを4年生より多数の児童が記述している。4年生になると、現在学習していることにひきつけて感想を述べるようになる。

3年生「私はいつもリズムをとっていないのでリズムをとりたいです。」

「私もピアノは習っているけど柳井修さんみたいには、弾けません。」

「ぼくは全然ふけません。」

「ぼくもひいてみたいなあと思いました。」他

4年生「『パ・パ・パ』を音楽で習ったけれど、サックス、フルート、ピアノでの演奏を聞いたら高くてきれいだなあと思いました。」

「『パ・パ・パ』は音楽の時間に聞いたのと楽器が違って、違うイメージが出てきた。楽しかった。」

## 2. 「質問」の分析

### (1) 回答内容の分類項目

#### 1. 楽器に関する質問

(種類・構造・仕組みなど)

2. 演奏(奏法)に関する質問
3. 楽器の音や音色に関する質問
4. 曲目や作曲家に関する質問
5. 演奏者に対する質問
6. そのほか

## (2) 分析結果

「質問」を学習指導要領の学年の枠組みに従って、低学年、中学年、高学年のまとまりでみると大きな違いのないことが伺える<sup>10</sup>。ここで学年別に比較すると<sup>11</sup>、1年生と2年生、5年生と6年生の集計には、各学年の間に大きな特徴的な違いは見出せなかったのに対し、3年生と4年生の間には、興味深い記述内容の差が見られた。ここでも3年生と4年生の回答内容をより詳細にみてる(下表および資料11)。

	3年生	4年生
1. 楽器に関する質問 (種類・構造・仕組みなど)	17%	74%
2. 演奏(奏法)に関する質問	8%	9%
3. 楽器の音や音色に関する質問	0%	9%
4. 曲目や作曲家に関する質問	5%	13%
5. 演奏者に対する質問	108%	42%
6. そのほか	19%	4%

## (3) 3年生と4年生の質問の傾向・特徴

- 3年生は演奏者=人に対する質問が圧倒的に多い。ほぼ全員が質問している。4年生でも多いのは、楽器に関する質問である。

3年生「(ピアニスト)は、いつからピアノが弾けるようになったんですか。」

「いつからサクスをやっていますか。」

「(フルート)一番得意な曲はなんですか。」

他

4年生「フルートは、アルト、ソプラノがあるのか。」

「サクスは2種類以上あるか。」他

- 3年生は、楽器の種類について尋ねたのみだったが、4年では楽器の種類をきくと同時に、仕組みについても興味が広がっている。

3年生「サクスはどれくらい種類があるんですか。」

「フルートには種類はありますか。」

4年生「(サクスのリードは)、なぜ植物なのか。」

「(フルート)やサクスはどんな仕組みで音

が出るのか。」他

- 4年生からは3年生ではみられないような質問が多数みられた。

4年生

- ・ 木管楽器に関する質問

「サクスやフルートのように金属製なのに木管楽器なのは他にもあるか。」

「昔は木で作っていたフルートがなぜ金属になったのか。」他

- ・ 奏法に関する質問

「強弱はどのようにつけるのですか。」

「フルート、サクスはどうやって音を震わせるのですか。」他

- ・ 楽器の音色に関する質問

「フルートやサクスはかすれた音にならないのか。」

「木のフルートと鉄のフルートの音は違うのですか。」

- ・ 曲目や作曲家に関する質問

「モーツァルトはほかにどのような曲を作ったのか。」

「ビゼーはいっぱい書いたわけではないのになぜ有名なのか。」他

- ・ 楽器の値段や購入先など

## III. 全体のまとめ

特徴をまとめると、以下の4点になる。音楽の聴き方に質的な大きな変化が現れていることがわかる。児童の聴き方のこうした飛躍的な変化をとらえ、有効に活用していくことで音楽の授業をより充実させる可能性があると考える。

① 3年生は演奏者=人への関心が中心だったが、4年生になると次第に音楽そのものへの関心が見られるようになってくる。

② 3年生では、各楽器の個別の音の特徴を聴き取ることが中心であるが、4年生になると、音の重なりへと聴き方の進展や、合奏に関心が生まれる様子が見られる。

③ 音楽鑑賞会で聴いたことと音楽の授業での学習内容を結び付けて、気づいたり比較したりして述べられるようになってくる。

④ 4年生では3年生にはみられないような感想・質問が多くなる。

これらのうち、①から③に関しては具体的に

以下のような点が考えられる。

まず①について、今回のワークシートでは、これまでの児童の発達に関する指摘にも通じる、3年生と4年生の記述内容の特徴的な違いがみられた<sup>12</sup>。3年生は、「わたしはいつもリズムをとっていないのでリズムをとりたいです。」「私もピアノを弾いていた人みたいにピアノを上手にひけたらいいなあと思います。」に代表されるように、自分の生活にひきつけて、自分と結びつけた主観的な感想を述べている。4年生は、「『パ・パ・パ』を音楽で習ったけれど、サクソ、フルート、ピアノでの演奏を聞いたら、高くてきれいななあと思いました。」「『パ・パ・パ』は音楽の時間に聞いたのと楽器が違って、違うイメージが出てきた。楽しかった。」「今習っている強弱をしていた。」のように、「音楽」の授業での学習を振り返る記述も増え、自己中心的な世界から脱し、客観的に知的な理解の進む過程を示している。音楽を音楽の授業にひきつけて聴く態度が生まれるこの時期は、音楽の授業で「文化としての音楽」を意識的に伝えていく重要な時期の始まりにあるとも推測される。

②にかかわる指導については、現行の学習指導要領の改正の特色の一つに、「大綱化・弾力化」がはかられたことが当てはまる。音楽教科の小学校の内容も2学年まとめて表記され、身に付ける能力と取り扱う教材が示された。教師が児童の実態をより深く知ることで、それに対応した内容や時期を適切に判断できるようになった。これによって「個別の音から音の重なりへ」と「独奏から合奏へ」の聴き方の質的变化に着目し、この両学年の児童の発達の実態に即した、より個別で適切な教材や指導の可能性があるのでないかと考えられる。

③については、鑑賞の楽しみ、すなわち音楽を聴くことの楽しみという点で、特に重要であると考えられる。西洋音楽で扱われる楽器は一つ一つ、それ自体、固有の音色を持っている。しかし、一つ一つの楽器が重なり合ったときには、楽器相互の音色の中に、高い均質性も求められる。たとえば、フルートとオーボエの音が重なったときには、[フルート+オーボエ]とい

う、新しい色彩の音を生み出す。そこに、アンサンブルの表現や鑑賞の醍醐味もある。そして、個性と協調が常に交錯し、様々な要素の両極を行きつ戻りつしながら、音楽が成立していく。全ての児童が一つ一つの音色の特徴に関心を持つこと、聴き取れることから始まり、二つの音が本当にうまく重なったときの感覚を耳にする喜びは、実際の音やそれらが重なり合う瞬間を間近で聴ける音楽鑑賞会でこそ味わえる経験だと思う。ここでは、西洋音楽の鑑賞を直接の話題にしているが、他のジャンルの音楽についても多かれ少なかれ当てはまることであると考えられる。今後の課題としては、授業との連携において音楽鑑賞会をいかに活用していくかということもある。これに関しては、音楽鑑賞会の後に行った授業実践について機会を改めて報告する。

#### おわりに

児童の発達は「10歳の壁」という言葉でも表現されるように、3年生と4年生の間に大きな節目があるといわれる。現在、文部科学省教育課程部会の資料<sup>13</sup>の中などにも「小学校では低、中、高という分け方が一般化しているが、その分け方がほんとうによいのかどうか、見直す必要があると思う。」という委員の意見も述べられている。音楽科の3年生と4年生の取り扱いについて、検討の余地があるとも考えられる。

本研究の結果に関しては、対象とした児童の数が限られていること、これまで児童が受けた音楽教育や3年生、4年生の授業で取り扱われた授業の内容などがどのように影響を与えたのかについて検証することも必要であろう。しかし、今回のワークシートが示した特徴は、3年生と4年生の時期が、音楽の聴き方に関して大きな飛躍を見せる時期にあたることを推測させる。このことは、児童の指導に関わる者にとって、この時期が「音楽」学習にとって大きなメルクマールとなる可能性を含んでいる。つまり、音楽の楽しみを深める上で、重要な時期であることが考えられる。それを踏まえたうえで、教材選択、音楽鑑賞会を生かした鑑賞活動、音楽

科の「表現」と「鑑賞」二つの領域の連携をはかった授業が行われるならば、児童にとっての音楽学習がより発見に満ちたものになるのではないだろうか。

#### 謝辞

高松市立二番丁小学校では香西志津子校長先生を始め、皆様に多大なご協力をいただいた。特に音楽科担当の田村恵子先生には、授業参観をさせていただいたほか、直接の運営面でも多くのご助力をいただいた。また同小学校評議員の花崎桂子先生、児童への話の内容や文章の分析について助言くださった香川大学の佐藤明宏先生、難曲のピアノ演奏を快く引き受けていただいた柳井修先生、資料収集にあたって香川大学附属図書館の皆様にも大変お世話になった。心より感謝申し上げます。

#### (Footnotes)

- <sup>1</sup> この小学校では教育出版より発行の教科書を使用しており、3年生の教材としてこの「メニューエット」がある。
- <sup>2</sup> 1年生61名、2年生74名、3年生56名、4年生88名、5年生73名、6年生89名の計441名を対象とした
- <sup>3</sup> 資料1、資料2
- <sup>4</sup> 資料4
- <sup>5</sup> 資料5
- <sup>6</sup> 資料6
- <sup>7</sup> 今回は、児童の分析のみ行っている。
- <sup>8</sup> 資料6
- <sup>9</sup> 資料7
- <sup>10</sup> 資料9
- <sup>11</sup> 資料10
- <sup>12</sup> 佐藤明宏(2004)pp.71-88
- <sup>13</sup> 中央教育審議会・初等中等教育分科会、教育課程部会(第30回(第3期第16回))議事録・配付資料 平成17年10月31日 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chuky3/siry0/004/05111802.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chuky3/siry0/004/05111802.htm)「基礎・基本」の徹底、自ら学び自ら考える「力」の育成について自由討議が行われた。主な発言より。

#### 参考文献

- 井田侑子・戸塚浩恵(2000)「子供と音楽とのかかわりを深める鑑賞教材の開発の実際」『初等教育資料』No.727,pp.38-41,文部科学省小学校課・幼稚園課編集
- 越智友子・小島律子(2006)「バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』にみる鑑賞教育の内容と方法原理」『大阪教育大学紀要 第V部門』第55号,第1巻,pp.39-58
- 金本正武(2003)「表現及び鑑賞の能力を主体的に身に付ける学習指導の工夫」『初等教育資料』No.768,pp.22-33,文部科学省小学校課・幼稚園課編集
- 金本正武他(2006)「小・中学校における音楽科の指導と評価のすすめ方について：鑑賞指導をとおして」『千葉大学教育学部研究紀要 第2部』Vol.1.54,pp.141-149
- 国重初美(2003)「心から音楽と向き合い、進んで音楽活動をする意欲や態度を育てる」『初等教育資料』No.768,pp.27-29,文部科学省小学校課・幼稚園課編集
- 阪井恵(2000)「音楽的思考指導としての〈操作的歌遊び〉」『音楽教育学研究1』pp.69-78,日本音楽教育学会編
- 阪井恵他(2000)「音楽教育における発達観を問い直す」『音楽教育史研究』No.3,pp.4-6,音楽教育史学会編
- 佐藤明宏(2004)『自己表現を目指す国語学力の向上策』明治図書出版
- 清水泰博(2000)「基礎・基本をおさえた音楽科学習指導の実際 高学年——高学年における鑑賞と表現の関連を図った学習の例——」『初等教育資料』No.723,pp.47-49,文部科学省小学校課・幼稚園課編集
- 初等科音楽教育研究会(編)『〔新版〕初等科音楽教育法』音楽之友社(2000)
- キース・スワンウィック(1992)野波健彦他訳『音楽と心の教育』音楽之友社
- 高須一(2005)「子どもたちのよさを生かす音楽科学習指導の創造的展開」『初等教育資料』No.799,pp.46-57,文部科学省小学校課・幼稚園課編集
- 竹井成美(1996)「児童・生徒の音楽的発達に即した音楽教育の在り方——キース・スワンウィックの「音楽的発達の螺旋状過程」図に照らした小学校学習指導要領(音楽)の分析を中心として——」『宮崎大学教育学部紀要 教育科学』第80号,pp.101-112

田中隆三(2005)『音楽科で育てたい『学力』』『大阪教育  
大学教科教育学論集2005』 pp.7-14  
D.J.ハーグリーブス(1985)小林芳郎訳『音楽の発達心  
理学』 田研出版  
宮下俊也(2000)『美の教授に対する評価方法の提案—  
—比喻を用いた美の描写に関する心理学的研究を  
通して—』『音楽教育学研究2』pp.199-208,日本音  
楽教育学会編  
宮下俊也(2000)『小学校音楽科観点別評価における問  
題点—鑑賞領域での混乱に注目して—』『奈良  
教育大学紀要』第53巻,第1号,pp.232-246  
村澤由利子・吉見隆史(2004)『初等教育音楽科授業に  
おいて実際の演奏による鑑賞指導を効果的に行う  
授業の在り方についての実践的研究』『鳴門教育大

学学校教育実践センター紀要』No.19,pp.141-150  
山本文茂(2000)『音楽教育の新しい構築に向けて』『音  
楽教育学研究3』pp.240-260,日本音楽教育学会編  
中央教育審議会・初等中等教育分科会,教育課程部  
会(第30回(第3期第16回))議事録配布資料http://  
www.next.go.jp/b\_menushingi/chukyo/chukyo3/  
siryo/004/05111802.htm(2005)  
『小学音楽 音楽のおくりもの1~6』平成14年度  
版,教育出版  
『小学音楽 音楽のおくりもの1~6 教師用指導  
書・研究編』平成14年度版,教育出版  
『小学音楽 音楽のおくりもの1~6 鑑賞編』平成  
14年度版,教育出版

### 3・4年生用 プログラム

(資料1)

「ピアノと管楽器でできく 歌劇の音楽 ~楽器の音をくらべてみよう~」			
作曲者	曲目	解説	
1 ビゼー	メヌエット「アルルの女」第2組曲から	ビゼーは、フランスの作曲家で、9才のころからパリ音楽院で作曲の勉強を始めました。たくさんの曲を書いたわけでは ありませんが、歌劇「カルメン」や組曲「アルルの女」はとても 有名な作品です。	
2 ビゼー	間奏曲「アルルの女」第2組曲 曲から		
3 ビゼー/ボルス	カルメン・ファンタジー オペラ「カルメン」から		
4 ヴェルディ/ロヴェッリョ	椿姫のテーマによる演奏会用幻想曲 オペラ「椿姫」から	北イタリアに生まれたヴェルディは、その一生のうちに26の オペラ(歌劇)を作りました。ヴェルディの代表作のひとつ、 歌劇「椿姫」は、有名なメロディーがたくさんあり、特に始ま りの場面(パーティの場面)で歌われる「乾杯の歌」はよく知ら れています。	
5 ワーグナー/リスト	タンホイザー序曲 オペラ「タンホイザー」から	ヴェルディとワーグナーは、2人とも1813年生まれ作曲家 ですが、ワーグナーはドイツを代表するオペラ作曲家です。 ワーグナーは、それまでになかった新しいオペラを作り、そ のオペラは「楽劇」とよばれています。また、自分の作品を演 奏するための新しい劇場を、ドイツにあるバイロイトという 街に建てました。	
6 モーツァルト	パ・パ・パ オペラ「魔笛」から	オーストリアの作曲家として特に有名なモーツァルトは、小 さい頃から音楽の才能を発揮し、ヨーロッパのあちこちら に演奏旅行に出かけました。短い一生でしたが、いろいろな 楽器のための作品や、歌劇をたくさん作りました。「魔笛」は、 モーツァルトが亡くなるその年につくられた最高傑作のひとつ です。	
歌劇(かげき) イタリア語で「オペラ」といわれる「歌劇」は、その文字のとおり、歌(音楽)と劇で作られています。お話は、歌われる歌詞によって進んでいきます。オペラの中で歌われる美しい旋律(メロディー)は、劇の中だけでなく、さまざまな楽器による演奏会でも取り上げられるようになり、多くの人に親しまれています。今日は、オペラの中で歌われた美しい旋律を、フルート、サクソフォーン(サククス)、ピアノのために編曲された作品で聴いてみましょう。			

「器楽で聴くオペラ作品」			
	曲目	演奏楽器	解説
1	ビゼー メヌエット ～「アルル女」 第2組曲から～	フルート ピアノ (サクソフォーン)	「アルルの女」(1872年) ドーデの戯曲のための劇附随音楽として極めて小編成のために書かれた。しかし、一般的に知られるのは、そこから数曲を選んだ組曲である。第1組曲は、ビゼー自身が劇の初演後すぐに組曲としたもの。よく知られる第2組曲は友人ギローによって劇音楽以外からも加えて組曲とされたもの。このとき既にビゼーは、亡くなっていた。
2	ビゼー 間奏曲 ～「アルル女」 第2組曲から～	サクソフォーン ピアノ	メヌエット(フルート)ビゼーのオペラ「美しきバースの娘」から転用・編曲されたもの。オリジナルは、フルートとハーブによる。 間奏曲(サクソフォーン)劇音楽第15番の間奏曲。厳かで美しい旋律には、ラテン語の歌詞が与えられ、「神の子羊」という歌曲としても歌われる。
3	ビゼー/ボルス カルメン・ファンタジー ～オペラ 「カルメン」から～	フルート ピアノ	オペラの名旋律をフルート独奏用の楽曲として自由な形のファンタジーとして仕上げたもの。 オペラ「カルメン」ビゼー(1875年) フランス人作家メリメの1845年の小説によるもの。名旋律が目白押しのオペラ。前奏曲、間奏曲、アリアなどが独奏や組曲として演奏される。ロマン派のフランスオペラの代表作。 ・舞台1820年ごろ、スペイン(セヴィリア) ・あらすじ 情熱的なカルメン(ジプシー)は自分に興味を持たないホセ(衛兵)を誘惑。ホセはカルメンに振り回されて罪人になった上、婚約者や全てをすてて悪党の仲間となる。しかしカルメンはエスカミーリョ(闘牛士)に心変わりし、ついにはホセが闘牛場でカルメンを刺し殺す。
4	ヴェルディ/ロヴェッリヨ編 「椿姫のテーマによる演奏 会用幻想曲」 ～オペラ 「椿姫」から～	サクソフォーン ピアノ	ヴェルディのオペラの名場面を自由な楽想のおもむくままに作曲した作品。 オペラ「椿姫」ヴェルディ(1875年) 小デュマの戯曲をもとに完成された「椿姫」は、ヴェルディのオペラで一番人気があるだけでなく、イタリア・オペラのなかでも最も愛好され、上演回数が多い作品である。「椿姫La traviata(道を踏みはずした女)」は、「カルメン」とともに3代初演失敗オペラのひとつ。結核で亡くなるべきヒロイン(ヴィオレッタ)の体格がそれにふさわしくなかったなどと伝えられている。 ・舞台 18世紀初め パリ ・あらすじ 社交界の高級娼婦で、貴族をスポンサーに持つヴィオレッタと青年アルフレードは純粋に恋をするのだがアルフレードの父の願いで、ヴィオレッタは身を引く。難病に冒され死期が近づいたヴィオレッタのもとに、すべてを知ったアルフレードが訪れるが、ヴィオレッタは静かに息をひきとる。
5	ワーグナー/リスト編 タンホイザー序曲 ～オペラ 「タンホイザー」から～	ピアノ	この序曲は、単独で演奏される機会も多い。「巡礼の合唱」とも呼ばれ、キリスト教徒たちの敬虔さを表現するとともに、タンホイザーとエリーザベトの純粋な愛も表している。荘厳で美しく、多くの人々に愛されてきた。 オペラ「タンホイザー」ワーグナー(1843-1845年) 難解なワーグナーのオペラの中では最も判りやすい作品。ワーグナーのオペラのテーマである「愛」「死」「救済」が表現されている。 ・舞台 13世紀 ドイツ チューリンゲン ・あらすじ 吟遊詩人であり騎士のタンホイザーと、タンホイザーを愛するエリーザベト。タンホイザーの親友だがエリーザベトを愛するヴォルフラムを主として構成される。「歌合戦」でヴォルフラムが「精神的な愛」を歌ったのに対し、タンホイザーは「官能の愛」を歌い、人々は彼を国から追放せよと罵倒した。タンホイザーはローマ教皇のもとへ許しを請いに行くが許しを得ることができない。エリーザベトは自らの死によってタンホイザーの救済を祈る。タンホイザーも息絶えるのだが、魂は救済される。
6	モーツァルト パ・パ・パ ～オペラ「魔笛」から～	フルート サクソフォーン ピアノ	パパゲーノ(鳥刺し)は、劇の随所に出てくる道化的な役柄。パパゲーノはパパゲーノの恋人。 第2幕 第29場 パパゲーノは、愛の試練に立ち向かうことができず、パパゲーナを失って悲しみ、自殺しようとするが、「魔法の鈴をふること」を思い出す。鈴をふると、再びパパゲーナが現れる。二人が喜んでうたう、ユーモラスな二重唱(奏)。 オペラ「魔笛」モーツァルト(1791年) 晩年の最高傑作のひとつ。台詞で劇を進行する「ジングシュピール」という形式で、一般市民を対象としたわかりやすい作品となっている。当時モーツァルトが入っていたフリーメイソンの影響が随所にみられる。 ・舞台：古代エジプト ・あらすじ：第1幕では、王子タミーノと夜の女王の娘パミーナが、魔法の笛と鈴の力で惹かれあうまでの物語。第2幕ではタミーノがパミーナを得るための3つの試練に立ち向かい、みごと成功を収める。
7	(アンコール) モーツァルト:恋とはどんな ものかしら ～オペラ「フィガロの結婚」 から～	フルート サクソフォーン ピアノ	

話の内容

(資料5)

1	<p>二番丁小学校のみなさん、こんにちは。                  今日、みなさんに会えて、とてもうれしく思っています。                  しばらくの間ですが、一緒に音楽を聴いて、いろいろなことをたくさん想像してみてください。                  今日、フルート・サクソフォーン・ピアノという3つの楽器で演奏会をします。                  楽しくきいてもらえるとうれしいです。                  みなさんは「作曲家」とは、どんな人か知っていますか。どんな人ですか。                  そうですね。 曲をつくる人ですね。                  今日、19世紀の有名な作曲家「ビゼー」「ヴェルディ」「ワーグナー」の曲について紹介します。                  はじめにビゼーについて紹介します。ビゼーはピアノの上手な作曲家で、「アルルの女」という物語に作曲しました。アルルというのは、フランスの南のほうにアルル市というのがあります。そのあたりに住んでいる男の人を、アルレジャン、女の人を、アルルジェンヌといます。パリに住んでいる男の人をパリジャン、女の人をパリジェンヌというのと同じです。                  ビゼーの「アルルの女」の中に、フルートとハーブのためのとても有名なメヌエットがあります。メヌエットは3拍子の曲で、もともとは踊りの曲でした。今日は、フルートとピアノで聞いてみましょう。</p>	
演奏：ビゼー メヌエット「アルルの女」第2組曲から (フルート+ピアノ+(サクソフォーン))		
2	<p>みなさん、ほくの持っている楽器がわかりますか。                  サクソフォーンです。普通は、サクソといいます。                  ほかに、どんな楽器を知っているかな。                  そうですね。 いろいろな楽器がありますね。                  フルートは、昔、木で作られていたので木の管でできている「木管楽器」という仲間になります。                  サクソはキラキラしているので、金属でできている仲間の楽器「金管楽器」と思われることがありますが、この楽器も実はフルートと同じ木管楽器の仲間に入ります。口のところにリードというものがある、それは「あし」という植物からできています。その植物のリードによって音が鳴るので木管楽器の仲間に入っています。                  サクソは、アドルフ・サクソさんという人が作ったので、サクソという名前になったのですよ。                  ヨーロッパで使われる楽器の中で、サクソは一番新しい楽器です。                  1840年ごろ、ちょうど、ビゼーが生まれた頃に作られた楽器です。                  ビゼーは、初めてこの楽器を他のオーケストラの楽器と一緒に使って作曲した人です。                  そして初めて使われたのが、この「アルルの女」の作品の中でした。その間奏曲をふいてみます。</p>	
演奏：ビゼー 間奏曲「アルルの女」第2組曲から (アルト・サクソフォーン+ピアノ)		
3	<p>さて、ビゼーは、オペラも作曲したのですよ。                  オペラのことは、日本語で歌劇といえます。歌劇というのを漢字にすると、ウタとゲキと書きます。                  オペラというのは、お話と音楽からできているのですね。                  オペラには、楽しいお話、愉快なお話、悲しいお話、いろいろなお話があります。                  お話のところは、歌ってお話することもあるし、劇のようにせりふを言うこともあります。                  ビゼーの書いた「カルメン」というオペラがあります。                  このオペラに、ビゼーがたくさんさんのきれいな、みんながすぐ歌いたくなるような、楽しいメロディーを作りました。そのメロディーは、たくさんの方が大好きになったので、お話がなくても楽しく口笛を吹いたり、たとえば歌がうたえない人は、楽器で演奏したいと思ったりするような、素敵なお話です。                  曲を書くのを作曲といいますが、こういうふうに、ほかの楽器で演奏したり、メロディーを少し変えて楽しんだりすることを編曲といえます。これから、ビゼーの「カルメン」の中の音楽をフルートとピアノで演奏します。</p>	
演奏：ビゼー/ボルヌ 「カルメン・ファンタジー」～オペラ「カルメン」から～ (フルート)		
4	<p>次にヴェルディの曲を紹介します。ヴェルディといっても、サッカーのヴェルディ川崎ではありません。イタリア人の作曲家の名前です。                  ヴェルディの「椿姫」というオペラは、カルメンと同じくらい、たくさんの方が大好きになるメロディーがたくさん入っていましたので、この曲もサクソで演奏できるように、ロヴェッリョという人が工夫し、編曲しました。                  ここのサクソフォーンは、さっきのサクソフォーンとは種類の違う楽器です。                  二つの楽器を並べるので、見てください。                  どこが違うかな。                  そうですね。管の太さや形も違いますね。                  管が細くて、短い、今度のサクソの方が、高い音がでるんですよ。                  音は、違うかな。 それでは、演奏します。</p>	
演奏：ヴェルディ/ロヴェッリョ「椿姫のテーマによる演奏会用幻想曲」～オペラ「椿姫」から～ (ソプラノ・サクソフォーン)		
5	<p>次にドイツの作曲家、ワーグナーを紹介します。                  みなさんは、ディズニーランドにあるお城を見たことがあるかな。                  ディズニーランドのお城は、ドイツのバイエルンという地方にある、ノイシュヴァンシュタインというお城をまねて造られています。日本語にすると、「新しい白鳥のお城」という名前になります。                  ワグナーは、このお城のあるドイツに住んでいました。今日は、ワーグナーの「タンホイザー」を聴いてもらいます。この「タンホイザー」の編曲者がピアニストのリストです。                  リストというのは、大ピアニストでした。こんなに上手にピアノが弾ける人はいない！ と、誰もが思っていた、すごい人だったのです。                  新しい曲をつくって「この曲は、世界で自分と自分の弟子さんの二人しか弾くことができないよ」と皆に言っていました。                  ところが、その頃、リストはビゼーに会ったのです。そうしたら、ビゼーは、その曲を完璧に弾いて、リストを驚かせたそうです。リストは、ビゼーに「あなたが一番上手です」と、ほめたそうです。ビゼーもピアノがとっても上手だったのですよ。                  また、リストは、さっきのヴェルディの「椿姫」の本当の椿姫さんのモデルになった人と、パリで恋人同士だったこともあるのですよ。(今日はバレンタインデーなので、びったりのお話ですね?)                  今日、香川大学のビゼー、またはリストといわれる、柳井先生にワーグナーのオペラ「タンホイザー」をリストがピアノ用にしたもの、編曲したものを弾いてもらいましょう。</p>	
演奏：ワーグナー/リスト タンホイザー序曲 (ピアノ)		
6	<p>それでは最後に、3人で演奏します。                  去年、モーツァルトが生まれてから250年のお祝いをしましたので、こしは251日目です。生きていたら251歳ということですね。でも、残念なことに、モーツァルトは、35歳で亡くなってしまいました。でも、みなさんが今でもきいたことがある、たくさんのお話を残したのですよ。その中には、オペラもあります。今日は、「まてき」、漢字にすると、魔法の笛と書きます。魔法の笛の中から、ば・ば・ばという、おもしろい曲を演奏します。</p>	
演奏：モーツァルト パ・パ・パ ～オペラ「魔笛」から～ (全員)		
7	<p>(アンコール)アンコールは、モーツァルトの作った「フィガロの結婚」というオペラがあるのですが、その中から、3人で演奏します。</p>	
演奏	モーツァルト 恋とはどんなもの ～オペラ「フィガロの結婚」から～ (全員)	
終りに	<p>みなさん、今日は楽しんでもらえたかな。                  クラスの先生にワークシートをお渡ししているので、今日の演奏をきいて思ったことや感じたことを自由に書いてきてくださいね。それでは、さようなら。</p>	



思ったこと・感じたこと

(資料8)

	3 年 生(56名)	4 年 生(88名)
1	楽器自体に注目して聴いた	・2種類のサックスの違いに注目した。
2	演奏(奏法)に注目して聴いた	・サックスの種類に関するもの。 例「サックスは2種類以上あるか。」他
3	楽器の音や音色に注目して聴いた	・楽器の奏法や弾き方など、3割以上の者が注目している。 例「ピアノを弾く人の手の動きが速いので、すごいと思いました。」 「とても速くて何でこんなに速く指が動くの?と思いました。」他 ・一つの楽器や奏法に注目しており、アンサンブルとしての注目の仕方はしていない。 ・目に見える技術的な難しさへの関心が高い。
4	楽譜の音や音色に注目して聴いた	・8割強が楽器の音に言及している ・音色に関する記述中で、各楽器の個別の音色、3種類の楽器での合奏、まで含めると6割強が記述している。 ・3種類の楽器の音の重なりについて15%が述べている。(音の重なりに関心を持ち始めている) 例「サックス、フルート、ピアノの音色がすごくあっていて、聞いているとわくわくしました。きれいだった。」 「『パ・パ・パ』は、3つの楽器の音がまざってきれいでした。」 ・「4. 曲目や曲の持つ雰囲気(曲想)・作曲者に注目して聴いた」に分けた記述の中でも、「3つしか楽器を使っていないのに」の記述が複数見られる。
5	曲目や曲の持つ雰囲気(曲想)・作曲者に注目して聴いた	・3割の者が曲のもつ雰囲気に注目している ・特定の楽曲をとりあげているのではなく、分散して記述している。視覚的なものを反映しているためか、フルートの楽曲で「メヌエット」に関する記述はなく、「カルメン・ファンタジー」の記述があるのみ。
6	演奏者に注目して聴いた	・4割強が楽曲の曲想・雰囲気について記述。 ・2割が「魔笛」について記述。 例「『パ・パ・パ』は、声はついていないけどお話ししているのがよくわかった。」 ・フルートの楽曲では、「カルメン・ファンタジー」の記述は1件のみ。「メヌエット」についての記述が4件。 ・12%が全体的な感想。 例「全部きれいな曲」など。 おもしろいこと ・音楽の時間と比較している記述7件。 例「『パ・パ・パ』は音楽の時間に聞いたのと楽器が違って、違うイメージが出てきた。楽しかった。」 「聴いたことのある曲でも楽器で演奏すると違う感じがした。きれいだった。」 「それぞれの曲にそれぞれの思いや感じるものが違って、聴いたことのある曲も少し違って、聴いたことのない曲もとてもきれいな音でした。」
7	感想・そのほか	・6割強の者が演奏者に注目している(視覚的)中でも、ピアノ奏者への記述が多い。 例「私がすごいと思ったのはピアノです。手が痛いのにがんばって弾いていました。」 「タンホイザー」の曲を一人でピアノを使って弾いているのがすごい。」他 ・「三人」、「みんな」を主語として記述しているもの6件。主語の記述のないものもある。
8	感想・そのほか	・また聴きたいなどの感想 例「『パ・パ・パ』を頭の中で歌うと楽しかった。」 「楽器は3つしかないのに6~8つの曲を演奏していたのがすごい。」 「2~3つの楽器だけでオーケストラのような音楽が作れていてとてもすごかった。」他 ・現在の音楽の授業や勉強と結び付けている。 例「今、音楽で習っている強弱をしていた。」

質問

(資料11)

	3 年 生(56名)	4 年 生(88名)
1 楽器に関する質問 (①種類②構造・仕組みなど)	①サクスの種類について。(2割)  おもしろい質問 ・「フルートはリコーダーと同じ指使いなんですか。」(リコーダーの指使いとの比較)	①種類についての質問が5割。 ・サクスの種類について、2割が質問、ピアノ・フルートの種類をたずねる質問(10件)が続く。 ・サクスに種類があることを知ったことから、他の楽器の種類へと興味が広がっている。 ・木管楽器の種類について。 例「(サクス)やフルートのように金属製なのに木管楽器の楽器は他にもあるか。」他 ②構造・仕組みについて ・サクスのリード(あし)について2割が質問。 おもしろい質問 例「フルートとリコーダーは、どう違うのか。」 「フルートの管の中はどんな仕組みになっているか。」 「どうしてサクスは、長くなると音が低くなるか。」 「木のフルートと鉄のフルートでは音が違うのですか?どこの音が一番違うのか。」
2 演奏(奏法)に関する質問	①指の動きに関する質問(10%) 例(ピアノ奏者へ)「指は疲れませんか。」 「早くひけるコツはなんですか。」 おもしろい質問 ・「フルートはリコーダーと同じ指使いなんですか。」(リコーダーの指使いとの比較)	①指の動きに関するものは、ほとんどなし。  おもしろい質問 ・「フルート、サクスはどうやって音を震わせるのですか。」(ビブラート)
3 ①楽器の音色や②楽器の音に関する質問	①音色に関する質問は、なかった。	①音色に関する質問なし。 ②フルートは、ほかにどんな音がでるか。 他
4 曲目や作曲家に関する質問	・モーツァルトのみ。(5%) 例「モーツァルトはどのくらい曲を作ったか。」 「モーツァルトの「魔笛」以外で最高傑作は何ですか。」	・モーツァルト、ヴェルディ、ビゼーと分散。(13%)
5 演奏者に対する質問	演奏者への質問は、ほぼ全員の児童 ・フルート、サクソフォン、ピアノと分散  ①練習に関すること ・練習時間について4割が質問。 ・楽器をいつからはじめたのか。(0%)  そのほか 例「わたしたちに6曲きかせるために何日間練習したのですか。」 ②他に演奏できる曲についての質問が最も多い。(25%) ③ほかにもできる楽器について。(11%)	演奏者への質問は4割。 ・ピアノ奏者への質問が多い。 例「なぜあんなにピアノが上手いのかコツが知りたい。工夫があるのか。」が最も多い。 ①練習に関すること。 ・練習時間の質問が最も多い。 ・楽器をいつからはじめたのか。(10%) そのほか 例「どんな練習をしているのですか。」 「いつから」「どれくらいやって弾けるようになったか。」 ②他に演奏できる曲についての質問。(6%) ③ほかにもできる楽器について。(1%) そのほか 例「なぜ音楽に興味を持ったのか。」
6 そのほか	・ピアノとサクスとフルートのおんぶのちがいはなんですか。 ・ほかにもいろんな楽器があるんですね。 ・ピアノは3人と合わせなくても、一人で弾いたら一曲になっているんですか。 ・弾いてくれた曲はどうやって決めましたか。 ・何で楽器を吹くとき体がゆれていたのですか。 ・香川大学には楽器が何個あるんですか。	・楽器の値段や、購入先 ・サクスの歴史 例「サクスは新しい楽器と言っていたけれど、いつ頃から使われたのか。」 ・「なぜ、3つの楽器しか使っていないのにそんなにすばらしい音楽になるのですか。」

(資料2)

3・4年生用 プログラム (表)

3・4年生用プログラム

**ピアノと管楽器で奏く 歌劇の音楽**  
～楽器の音をくらべてみよう～

- ビゼー作曲 「アルルの女」から メヌエット 協奏曲
- ビゼー作曲 「アルルの女」から 協奏曲
- ビゼー作曲 ホルヌ協奏曲 カルメン、ファンタジー  
ビゼーは、フランスの作曲家で、今までのからい音楽の中で最も美しいとされています。その中でも最も美しいとされているのが「アルルの女」です。この曲は、フランスの作曲家で、今までのからい音楽の中で最も美しいとされています。その中でも最も美しいとされているのが「アルルの女」です。
- ヴェルディ作曲 ロヴェッリヨ協奏曲  
「南無」のテーマによるファンタジー  
ヴェルディはイタリアの作曲家で、今までのからい音楽の中で最も美しいとされています。その中でも最も美しいとされているのが「南無」です。この曲は、イタリアの作曲家で、今までのからい音楽の中で最も美しいとされています。その中でも最も美しいとされているのが「南無」です。
- ワーグナー作曲 リスト編曲 「タンホイザー」序曲  
ワグナーとリストは、二人とも19世紀の作曲家です。ワグナーは、ドイツの作曲家で、今までのからい音楽の中で最も美しいとされています。その中でも最も美しいとされているのが「タンホイザー」です。この曲は、ドイツの作曲家で、今までのからい音楽の中で最も美しいとされています。その中でも最も美しいとされているのが「タンホイザー」です。
- モーツァルト作曲 歌劇「魔笛」から パパ・パ  
モーツァルトはオーストリアの作曲家で、今までのからい音楽の中で最も美しいとされています。その中でも最も美しいとされているのが「魔笛」です。この曲は、オーストリアの作曲家で、今までのからい音楽の中で最も美しいとされています。その中でも最も美しいとされているのが「魔笛」です。

プログラム (裏)

歌劇 (のうた)

イタリアで「オペラ」といわれる「歌劇」は、その文字通り、歌(歌唱)と劇(劇)が一体になっています。これは、歌が劇の中心となって進みます。オペラの中で最も美しいとされているのが「アルルの女」です。この曲は、フランスの作曲家で、今までのからい音楽の中で最も美しいとされています。その中でも最も美しいとされているのが「アルルの女」です。

今日は、オペラの中で最も美しいとされている「南無」を、ピアノと管楽器で奏出します。ピアノと管楽器の音をくらべてみましょう。

演奏者 (演奏者)

ピアノ 佐藤 健 (100%)

フルート 青木 夏 (100%)

ピアノ 佐藤 健 (100%)

(資料3)

3・4年生用 ワークシート

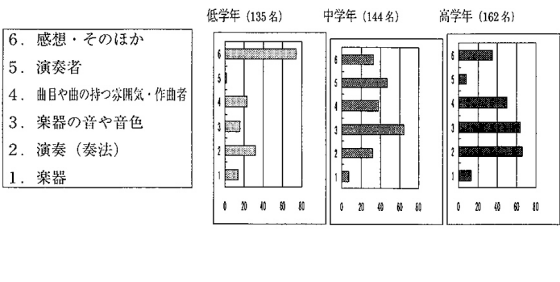
演奏を聞いて感じたこと、聞いたことのある曲に書き込んでみよう。

～練習コーナー～  
いよいよ演奏してのよ!!

生 組 名 録

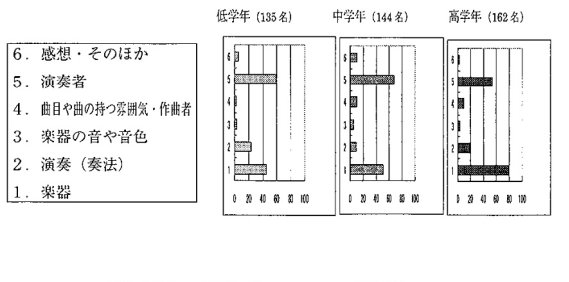
思ったこと・感じたこと

(資料6)



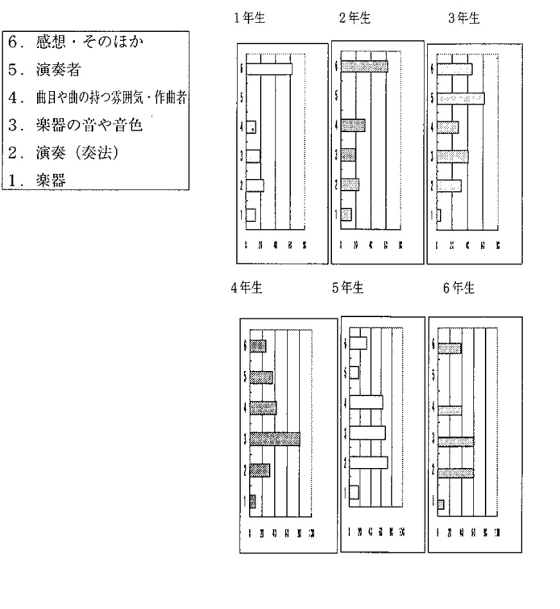
質問

(資料9)



思ったこと・感じたこと

(資料7)



質問

(資料10)

